

平成22年度 茨城県立水戸農業高等学校自己評価表

目指す学校像		知・徳・体を身に付けた有為な人材を育成する学校。生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校。体験学習・国際交流等を通してコミュニケーション能力を磨ける学校。地域社会の機関・団体・住民等と連携するとともにそれらに開かれた学校。		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
[昨年度の成果] ・反復指導で基本的な生活習慣を身につけた生徒が増えた。 ・体験的学習で、素直で豊かな心を育む生徒が増えた。 ・教師自らが、それぞれの授業をこれまで以上に大切にしよう心がけたことで、生徒の授業に取り組む姿勢が良くなっている。 ・各科、学年、進路指導部等が一体となった進路指導の確立がある程度実践できた。 ・染症への適切な感対応ができた。 ・農林水産部等との連携事業により、就農志向者の意識が向上した。 ・本県で開かれた農業クラブ全国大会は大成功の内に終了することができ、農業クラブの活性化にも繋がった。	・基本的な生活習慣の確立	・挨拶の励行や身だしなみを整えるなど、基本的な生活習慣を確立させる。 ・規則正しい生活を通して、時間を大切にするなど、規律ある生活習慣を身につけさせる。 ・道徳教育や農業教育等を通して、豊かな人間性や素直な心を育む。 ・ボランティア活動等への積極的な参加を通して、思いやりの心を育む。		
	・基礎学力の向上	・授業時間を大切に、授業研究を怠らず、授業の質的向上を図る。 ・学力差のある生徒に対する学習指導の在り方についての研究授業や公開授業に積極的に取り組む。 ・自ら学習に取り組む習慣を育成する。		
[本年度の課題] ・わかりやすい授業を心がけ、授業への積極的な参加を促す。 ・1年次から系統的な進路指導体制の確立を図る。 ・LHR等あらゆる機会を利用して、進路情報を適切に提供する。 ・インターンシップ等、職業体験活動の参加数を高め、望ましい職業観・勤労観の育成に努める。 ・道徳教育を中心に、各教科指導を行う中で、規範意識を高め、規則を守るようにする。 ・生徒会活動や農業クラブ活動を活発にし、魅力ある学校行事を実施する。 ・部活動紹介や見学会等を実施し部活動加入を促す。 ・体験学習の充実と農業クラブの各種発表会、競技会への参加人数を増やし、活性化に努める。 ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。 ・全国産業教育フェア茨城大会の成功を期する。	・系統的な進路指導と指導体制の確立 ・特別活動の活性化	・生徒の進路希望に沿った自己実現のために適切な支援を行い、100%の進路実現を目指す。 ・運動部・文化部等の加入率50%を目指し、魅力ある部活動を展開する。 ・成達会等の自主的活動を推進する。		
	・健康と安全教育の充実	・健康管理、交通安全、機械や農薬事故等の防止など、安全教育の充実を図ると共に危機管理、防災、不審者対応などのマニュアルの点検を常時行う。		
	・農業教育の充実	・特色ある学校づくり支援事業の取組を推進することで、農業後継者の育成を図る。 ・全国農業高等学校アクションプラン「エコロジカル・アグリハイスクール」宣言に基づいた行動と実践を行い、その検証と評価を行う。 ①基本的な農業技術能力を持つ人材を育成する。 ②食の安全・安心教育を推進する。 ③奉仕体験活動を積極的に推進する。 ④環境教育を推進する。 ⑤開かれた学校を目指し、農業教育普及活動を展開する。 ・プロジェクト学習や各種発表会・競技会等に積極的に取り組ませることにより、農業クラブ活動の充実を図る。 ・全国産業教育フェア茨城大会の準備・運営を通して、農業教育の活性化を図る。 ・資格取得試験の合格率の向上を図る。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教務部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取り組みの研究	10年後の水戸農業高校の在り方を検討する。 授業に対する取り組み方や学習環境の整備改善にあたる。 教育課程の諸課題に関する研究を行う。 情報の共有化に関する研究を行う。 職員室の環境整備にあたる。		
	基礎学力の向上	授業研究（授業参観等）を実施し、授業内容の充実を図る。 成績向上プランを策定し実施する。		
	広報活動の充実	ホームページ等を充実させる。 積極的に中学校訪問を実施する。		
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立	再登校指導の継続と違反物預かり指導を実施する。 授業時の制服着用や携帯電話の電源を切らせるなど、望ましい授業態度を養う。 社会的マナーアップの向上を図る。 遅刻防止へ体系的な取り組みを図る。		
	安全な生活環境維持	バイク違反者の通学許可取り消し等の指導強化を図る。 貴重品の自己管理を徹底させ、盗難や紛失にあわないようにする。 薬物防止教育などを通して規範意識を高め、法律や校則が守れるようにする。 立哨指導等を通して、登下校時の安全を確保する。		
	心の教育の推進	農業教育や道徳教育を通してモラルや命の大切さを養う。 教育相談を通して自己への信頼感が持てるようにする。 ボランティア活動・交流活動・体験活動等への参加を促し、他者との共生、異質なものへの涵養の念を養う。 生徒の活躍の場を作ることで、私はできる（価値がある）と感じられるようにする。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
特別活動部	部活動の活性化	部活動の加入率50%を目指す。 活動の成果を高めるためのリーダー育成と環境整備の充実に努める。 スポーツ推薦人数を増やすことで運動部活動の活性化と競技力向上を目指す。		
	学校行事の充実	文化祭(水農祭)における生徒主体の計画立案と会場の環境整備を図る。 各種学校行事への積極的な参加を通して、生徒に達成感を体験させると共に、クラスの連帯意識を高める。		
	生徒会活動の充実	ボランティア活動など地域と連携した自主的、実践的な活動を展開する。 ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。		
進路指導部	系統的な進路指導の充実 (多様な進路実現に対応できる指導・援助)	3年間を見通し、ホームルームでの進路指導の充実を図る。 系統的計画に基づいた各学年別の進路講話、進路ガイダンス、面接指導などの充実を図る。 各種進路情報の収集と積極的活用を図る。 係分担の明確化と各学年間との連携強化、組織的体制の統合整備を目指す。		
	進学指導の充実	推薦・AO入試、小論文対策、作文やレポートの作成指導、面接指導を充実させる。 進学対策のための課外を実施する。		
	就職指導の充実	就職対応の模擬面接指導、履歴書や礼状の書き方などの添削指導を充実させる。 積極的な企業開拓と継続的な訪問を実施し、就職情報の提供・共有を図る。		
	勤労観・職業観の育成	インターンシップへの積極的な参加、体験型ガイダンスや進路講話を充実させる。		
保健厚生部	生徒の健康安全に関する管理運営	健康診断の実施と共に、保健日誌を活用して生徒の健康状態を把握する。 感染症対策（新型インフルエンザ等への迅速な対応）に万全を期す。		
	校舎内外の学習環境の安全と美化	清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。		
	防火防災対策の徹底	緊急時の避難訓練を実施する。 消火訓練を実施する。		
図書部	本校の教育目標に応じた学校図書館作りの研究	農業教育の専門学校として関係書類の整備に努める。 本校の文化センターとしての役割を果たすために、図書・視聴覚資料の整備に努める。 職員研修の成果として、紀要を発行する。		
	学校図書館を利用した教育の充実	教科指導とつながりをもった教育資料の充実に務め、授業・自主学習の支援をする。 校内読書感想文コンクール、図書委員研修会等の開催や広報誌の発行により、各種情報の収集と発信に努める。 図書委員会活動を活発にし、生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。		
	視聴覚機器の充実と視聴覚を利用した教育の推進	授業での利用を優先しつつ、広く教育活動の場として提供するように努める。		
	学校図書館の施設・設備の充実	視聴覚室の空調設備を整備する。		
	蔵書の整理	利用しなくなった書籍の除籍作業をする。		
渉外部	P T A総会の成功	案内文書を各家庭に郵送し周知させ、出席率の向上に努める。 役員会・運営委員会で十分に議案を審議する。		
	P T A支部活動の見直し	慣例にとらわれず、現状で最も効果的なP T A支部活動をこの1年で検討していく。その際に、保護者の声、職員の声を十分に聞き、長続きする体制づくりに配慮する。		
	校外生徒指導の実施	後台駅でのあいさつ運動、黄門祭り巡回指導など、多くの会員の参加を促す。		
	主催行事の充実	昨年実施できなかった水農祭にP T Aとして参加する。 H Pや会報誌を通して各種行事案内や実施報告を行い、参加率の向上に努める。		
農場部	資格取得の合格率の向上	合格率向上のため、計画的な課外学習に取り組み、指導体制を充実させる。		
	農業クラブ活動の活性化	プロジェクト活動を推進し、生徒の自主的・主体的学習の深化を図る。 農業クラブの各種発表や技術競技に意欲的に取り組ませる。		
	「エコロジカル・アグリハイスクール宣言に基づいた行動」 ①基本的な農業技術能力を持つ人材の育成 ②食の安全・安心教育の推進 ③奉仕体験活動の積極的導入	各学科の専門に関する知識・技術の学習を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。 農業担い手育成事業を充実させると共に、デュアルシステム事業に取り組む。 安全で質の高い農産物の栽培に取り組む。 農業機械、実験・実習器具の安全な操作や、適切な農薬の使用など、安全な学習の徹底を図る。		
	④環境教育の推進	校内環境の美化や、地域連携活動の一環として草花の苗等の配布活動を継続する。 環境に負荷をかけない農産物の栽培に取り組む。		
	⑤開かれた学校を目指すとともに農業教育の普及活動の展開	幼稚園児や小学校児童に対し、農業体験活動の指導・援助の学習を展開する。 第20回全国産業フェア茨城大会への参加とその準備を進める。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
事務部	授業料滞納の解消	学年・担任との連携のもと、前年度分の授業料滞納者の減少を図る。		
	環境整備の推進	施設が老朽化しているため、予算を確保しながら修理・修繕に努める。		
	経費の節減	予算削減の折、職員・生徒の意識の高揚により節電、節水に努める。		
	環境保全に向けた具現化の推進	業務用消耗品（事務用紙類）は再生紙を購入し、環境保全の役目を担う一助とする。		
国際教育委員会	予算の有効活用	緊縮財政の折、限られた予算で最大の効果が上がるように努める。		
	国際感覚の涵養	早期に募集を開始し、その内容を検討、吟味し、充実した体制をつくる。 タイ、ニュージーランドへの派遣を実施し交流を深める。		
	学校生活の充実	国際交流は、自己の実力の向上に支えられて充実したものになることを認識させることで、学業の充実を図る。		
ネットワーク委員会	派遣前の事前指導の充実	語学学習を充実させ、相手国の理解を高めると共に、日本文化の理解を深める。		
	ホームページの定期的な更新	各学科や各部門へ働きかけ、常に最新の情報を収集する。		
寮務委員会	ネットワーク及びPCのセキュリティの強化	パソコンの構内LANや周辺機器への接続は委員会で一元管理する。 ウイルス対策のためのソフトウェアの管理や更新を定期的に行う。		
	基本的生活習慣の確立	規律ある共同生活を通して、挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神の確立を図る。		
	集団における生活ルール意識の育成	週番活動や清掃当番を責任を持って遂行させ、相互協力の精神を高める態度を育てる。 寮内外の行事や部活動を通して、意欲的・積極的に参加する心構えを養う。 ボランティア活動（地域のゴミ拾い・清掃活動）、営農講話（OB・優良農家など）、資格取得学習の充実を図り、農業や自然環境を重んじる態度を啓発する。		
1 学年	家庭・地域との連携	保護者の宿泊研修会（講演会・寮体験）や寮協力委員会を充実させ、生徒理解や社会教育の充実・強化を図る。		
	基本的生活習慣の確立	出欠や遅刻早退の事前連絡ができるように、家庭と緊密な連携を図る。 挨拶や身だしなみに注意を払い、自分の行動や姿に責任が持てるようにする。		
	望ましい授業態度の育成	授業を受けるためには、机上の環境を整え、自分勝手な振る舞いをすることがないように心得させる。 基本的な物事の見方やとらえ方を学ぶ。		
2 学年	集団における自己の確立	集団生活を送る上で、自分の仕事や役割を理解し、周囲に貢献できる人物としての資質を涵養する。（清掃・HR活動に積極的に参加させる）		
	基本的生活習慣の確立	服装・頭髪や時間・規則などを守り、高校生としてふさわしい態度を身に付ける。 保護者と連絡を密にし、早めに対応することで指導の徹底を図る。		
	進路意識の高揚	進路目標を具体化し、その実現のための方策を考える。 日々の学習に真剣に取り組み、学ぶ姿勢と基礎学力の向上を図る。 体験学習などに積極的に取り組み、社会性を身につける。 資格取得を推奨し、専門知識を習得すると共に進路の選択肢を拡げる。		
卒業学年	全体指導の促進	集団生活の中で自己責任や思いやりの気持ちが持てるようにする。 修学旅行やその他の学校行事の中で、集団の一員であることを自覚し、適切な行動がとれるようにする。		
	基本的生活習慣の定着	状況を適確に判断し、規範を守り善悪の判断が出来る生徒を育てる。 身だしなみを整え、場に応じた挨拶や返事が出来るようにさせコミュニケーション能力の向上を図る。 感謝や謝罪の気持ちが常にもてるように日々の学校生活で心の育成を図る。 保護者とは適宜連絡を取り、学校生活に支障をきたさないよう連携を図る。		
	全員の卒業と進路の決定	適性を知り進路の実現に向け早期の対策を立て、様々な機会を利用して啓蒙する。 学科・教科等の協力を得て課外や入試対策の指導に力を入れ目標に向かって努力させる。 基礎学力の向上と個々の進路実現に向けた取組みの強化を図る。 生徒との面談を多く行い、生徒の希望実現に取り組む。		
農業科	団体への帰属意識と社会規範の確立	集団の中で相手の気持ちや立場を考え、責任ある言動がとれるようにする。 所属集団の一員としての自覚を持たせ、他学年の模範となるような生活をする。		
	農業教育の充実	魅力ある農業教育を展開し、農業や自然環境を重んじる態度を啓発する。 農作物の育成を通して、思いやりや環境への関心を高める。 専門教育学習（プロジェクト学習等）を推進する。		
	基本的生活習慣の確立	挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神を涵養する。 授業に臨む心がまえや授業態度を向上させる。		
	学習環境の安全と美化	更衣室等の清掃区分を明確化し、教員による指導・監督の徹底に努める。 実験実習教室内外の美化及びごみ分別の徹底と減量化に取り組む。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
畜産科	授業態度の向上	授業、実験、実習の開始時整列、返事、服装等きちんとした態度で学習させる。実験実習の準備から展開、後片付けまで生徒の実験実習における自主的参加を図る。		
	体験教育の推進	主体的、創造的に家畜や動物に触れ、生命を感じる教育を実践する。（分娩管理実習、解剖、解体実習の活用、畜体の測定、動物の運動、食品の加工）		
	わかりやすい授業の展開	課題研究において、一人一人の目標にそった課題の設定や内容の充実を図る。専門科目の内容の特色を出し、資格取得の目標を持たせるなど教育内容の充実を図る。		
	牧場の地域社会への開放	牧場を地域社会に積極的に開放し、教育活動の活性化を図る。		
園芸科	わかりやすい授業の展開	専門科目学習における教室授業（座学）と実験実習を一体化し、意欲的に学習する態度の育成を図る。		
	園芸作物の栽培技術の習得	プロジェクト学習の取り組みと、育苗から収穫までの栽培管理実習の強化を図る。資格取得の充実を図る。		
	全国産業教育フェアへの積極的な参加	産業教育フェアへ積極的・主体的に参加し、準備活動、当日の運営を通して責任感や協調精神を育成する。		
	プロジェクト活動・課題研究発表会の充実	課題研究・農業クラブ活動で、一人一人がテーマを設定し、自ら問題点を解決していく力を育成する。課題研究発表会で、意欲的に発表できるよう、きめ細かな指導を行う。		
生活科学科	「つくって食べる」という食農教育の推進	自産自消、旬産旬消、地産地消という考えを基本に、年間60品目以上の作物をつくり、自給の体験を通して生きるということの本質を理解する。		
	自立した生き方、本来あるべき生き方の探求	1年 「作物を栽培して、それを食材として調理・加工して食べることに興味を持ち、食べるということの本質を理解する。 2年 栽培管理ができるようになることを通して、自信と誇りをもつ。 3年 自ら課題を設定し解決することで、自立した生き方につなげる。		
農業土木科	基本的な生活習慣の確立	体験学習をとおして、社会人として必要な礼儀、基本的な生活習慣を身につけさせる。節度ある授業態度を身につけさせるとともに、学習の基礎基本を充実させる。		
	資格取得教育の推進	専門教科に係る資格が取得出来るよう、課外指導の徹底と充実を図る。		
	進路指導の充実	生徒の希望する進路実現のため、進路開拓や継続した指導を展開する。		
	課題研究の充実	専門教科の完成として充実した内容の展開を図る。		
食品化学科	専門教育の充実	実験・実習等の系統的理解を深めるために、実験・実習指導書等の改善を図る。また、教室授業と実験実習を一本化することで指導内容の充実に努める。		
	体験学習の意欲向上及び環境整備	農業クラブ活動でのびのびとプロジェクト学習が出来る環境をさらに充実させる。課題研究発表会を学科全体で実施することで生徒の取り組み意識・意欲を高める。		
	資格取得に向けた支援	課外授業等を実施し、資格取得の合格率の向上を図る。資格取得意欲向上のため、学習意欲の低い生徒に対し、個別指導により基礎的な力を身につけさせる。		
	進路指導の充実	常に進路相談ができる環境づくりを心がける。		
	実験・実習を通して安全教育の徹底及び基本的な生活習慣の確立	授業・実習中の安全教育を徹底し実践する。教室授業、実験・実習それぞれの場面に応じた服装や時間の管理を徹底させる。		
農業経済科	基本的な学習習慣の定着	・毎回、授業開始時に携帯電話の扱いや服装について注意を促しケジメをつけさせる。		
	資格取得の推進 進路意識の高揚	・早めに各種検定の課外を実施し、合格圏の生徒を増やすことで学習意欲の向上を図る。 ・ホームルームや学科集会などで、繰り返し情報を提供することで、普段から生徒が進路について意識する環境をつくる。		
定時制農業科	確かな学力の定着	教材を精選し、基礎学力を身につけさせる授業展開を行う。基本的な学習態度の育成を図り、成就感を味わえるような授業展開をする。個の能力に応じた指導により、基礎学力の向上に努める。		
	生徒理解の充実	生徒・保護者との面談機会を確保する。保護者や出身中学校と密接に連絡を取り生徒理解に努める。		
	進路指導の充実	ホームルームや道徳の時間を中心に、自己の将来を見つめさせ、その展望を考えさせる。アルバイト等の社会体験を通して、早期から進路意識を啓蒙する。進路意識を啓蒙する取り組みを学年毎に企画・立案し、進路指導の充実を図る。ハローワークとの連携を密にし、進路実現に努める。		
	自信を持てる体験学習等の充実	生徒が自信を持てる何かを見つける取組をする。インターンシップ等、生徒が自分に自信を持つことができる体験活動を充実させる。		
	基本的な生活習慣の定着	常に元気なあいさつが交わせる明るい生活環境をつくる。人の話を聴ける態度を身につけさせる。一人一人に応じた適切な教育や支援を実践する。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語科	基礎学力の向上	基礎・基本を定着させるため、生徒の実態に沿った授業を展開する。 授業参観を通じて、情報交換や指導力の向上を図る。 小テストや課題プリントを作成・活用し、言葉の理解の定着を図る。		
	表現力の向上（進路対策）	長期的・段階的に、自分の考えを文章にまとめる力を育成する。 生徒の進路に応じた個別指導を実施する。		
地歴・公民科	我が国及び世界が形成される歴史的過程・地域的特色及び現代の社会についての理解と知識の深化	新聞や視聴覚教材など多種多様な教材を用いながら、授業内容を分かりやすく伝える工夫をする。 基本的な事項・事柄を精選し、それぞれの科目の特長を生かした指導内容を構成する。		
	国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質の涵養	授業に臨む姿勢をつくるため、ノートや補助教材を準備させることはもちろんのこと、携帯電話の扱いについても注意を払う。 ノート提出等を定期的実践し、生徒が主体的に授業に取り組めるように指導する。		
数学科	基礎学力の向上	基礎・基本の定着を図るため、生徒の実態に沿った授業を展開する。 早朝・放課後の課外を実施し、多様な進学希望に対応する。 基礎学力が定着していない生徒へ充実した個別指導を実施する。		
	数学検定資格取得の奨励	年3回の実施により、学習意欲を高め、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。		
	教員の指導力の向上	授業公開週間(Math Week)を11月の第2週目に設けて、自己研鑽に努める。		
理科	基礎学力の向上	各科の学習内容と関連した授業内容を精選し、知識の理解・活用に重点を置く。		
	興味・関心の向上	科学のトピックスの紹介などを通して、農業と生物・化学の関連性を理解させる。		
	進路指導への積極的な関わり	課外の実施と個別指導を充実させる。		
英語科	基礎学力の向上	教科書だけでなく、辞書や副教材等を活用し、基礎的なところから学習できる環境を与え、きめ細やかな指導を行う。		
	モチベーションの向上	A.L.Tを活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。 魅力ある授業展開を通じ、英語の授業に取り組む意欲を高める。		
	資格取得の奨励	授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の授業、課外、面接対策を積極的に行う。 英検受験希望者に対する受験級別の課外を実施する。		
保健体育科	体力の向上	生涯にわたり主体的に活動できる体育学習を推進する。 自己の体力に応じて目標を定め、計画的に運動を行う。 体育授業における服装指導等の徹底を図る。		
家庭科	家庭生活課題を主体的に解決する能力の涵養	実験・実習を通して技術の習得を図るとともに、心のふれあいを持ち、豊かな人間性と生きる力を育む。		
	家庭生活の充実向上を図る能力と、実践的な態度の育成	体験学習、視聴覚教材の利用、新聞記事の活用などにより興味・関心を高め、身近な問題としてとらえさせる。		